

野洲駅南口周辺整備等に関する市民懇談会 要録

日 時	令和5年10月24日（火）19時00分～21時10分
場 所	コミュニティセンターなかさと 大ホール
参加者	23名
案 件	文化施設集約化に向けた方針案について 及び にぎわい創出に向けた野洲駅南口周辺整備事業について
内 容	別添資料をもとに、文化施設集約化、野洲駅南口周辺整備事業についてそれぞれ説明を行い、その後に質疑応答を行った。質疑応答の概要は以下のとおり。

『文化施設集約化に向けた方針案』に関する質疑応答（概要）

▶：質問・意見、 ⇒：答弁

- ▶シライシアター野洲に集約で良かった。さざなみホールもあった方が良いが、財政を考慮すればやむを得ない。
文化小劇場がなくなるとコミセンやすにホールがなくなる。ピアノ発表会や美術展で利用されているが、シライシアター野洲の小ホールでは小さく暗いため難しい。200人程度でも文化ホールの中にできれば良いが難しいとも思う。駅前整備の中で考えているのか。
⇒文化小劇場を廃止する代替として300人規模の建物を再度建てることは考えていない。
これまで実施されてきたイベントについては、他のコミセンや小ホール等の既存施設を活用することを検討していく。
コミセンやすのホール機能がなくなることについては、コミセンやすをどうするか議論の中で検討していくことになる。コンベンション機能については、駅前整備の民間提案の中で可能かどうか検討していく。

- ▶シライシアター野洲の改修費は22億との報道があったが、どの程度の工事内容を想定しているのか。座席数はどうなるのか。700席では有名なアーティストは来てくれない。
文化小劇場には展示機能もあるが、なかった頃は小学校の体育館で美術展もやっていた。野洲学区にも配慮して考えてもらいたい。
⇒機能は大きく変えず、リニューアルする想定費用である。老朽化した舞台照明や音響のほか、トイレやバリアフリー対応等が主な内容である。

- ▶舞台機構の自動化も含んでいるのか。座席数は1,000席確保できるのか。
⇒舞台機構も現在の基準に合ったものに更新する想定である。座席は今のままの大きさなら1,000人は入れるが、快適にするなら減ってしまう。利用者の意見も聞きつつ考えていきたい。

- ▶文化ホールは芸術ホールであり、文化はもっと広いものである。コンベンションについては駅前整備の方で説明があるのか。古い建物だがアスベストは問題ないのか。
⇒コンベンション機能は、民間の提案をもらってはどうかという議論がある。以前、結婚式場が駅前にあったが、そのような広いスペースが欲しいというニーズがある。
また、アスベストは設計の中で調査し、必要に応じて改修工事に反映していく。
- ▶コンベンションを求める意見は反映されるのか。以前にあった結婚式場レベルでは、野洲ならではの魅力にならない。安全面を考えれば、アスベスト対策費用を見込んでいないのはあまりに粗雑ではないか。

- ▶シライシアター野洲が存続で良かった。さざなみホールは30年前に音楽のあるまちづくりをするため、音楽ホールとして整備された。老朽化の現状は理解しているが、中主中の合唱コンクール等も行われており、できれば中主学区にも残してもらいたい。
- ▶そもそも教育委員会の提案は、施設を同じ土俵で比較したものでなかったため、遠回りすることになってしまった。
文化小劇場がなくなればコミセンやすのホールがなくなるが、コミセンやすはそのまま残すのか。
⇒改修案にコミセンやすは含んでおらず、残して活用する想定である。コミセンのホール機能の解決策によっては移転の可能性もあるが、これから議論を開始するため、今後検討していきたい。
- ▶シライシアター野洲の大規模改修は安全面で問題ないか。耐震ができていないのではなかったか。
⇒シライシアター野洲は新耐震基準で建築されており、建物の耐震は問題ない。ただし、客席吊天井については既存不適格となっているため、大規模改修時に必要な耐震改修を行う。また、コンクリート強度等の調査も行い、必要な改修も行う予定である。
- ▶さざなみホールを解体して子育て支援に資する施設にするとのことだが、現在のさざなみホールの良い雰囲気や景観を残して欲しい。
- ▶さざなみホールの貸館はいつまでできるのか。
⇒このままでは、必要最低限のサービスが継続して提供できないため、近く閉館を予定しているが、令和6年12月までは開館する予定である。
- ▶現在、さざなみホールで活動している団体は、どうすれば良いのか。
⇒それぞれの団体で検討いただきたいが、内容によっては文化ホールで相談に乗らせてもらう。
- ▶さざなみホールは、旧中主町民が誇りを持っていた施設である。先日の議会特別委員会の報道を見て、旧中主町会議員が旧中主地域の市議会議員を訪ねられたが、今後の野洲市のためにやむを得ないと苦渋の決断をしたとの説明を受け、理解されたと聞いた。
資料のイメージでは、跡地利用は遊具中心の広場だが、守山市の地球市民の森はもっと広く、さざなみホールの場所に作っても見劣りしてしまう。旧中主の住民が自信と誇りを持って子育て支援施設となるよう、中身を掘り下げて検討し、充実したものにしてもらいたい。
⇒旧中主町の方にも納得してもらえる代替施設を検討したい。ただし、市では遊具メインの屋外施設を想定している。市民の意見をいただいて考えていきたい。
- ▶さざなみホールは、野洲市環境基本計画で緑化を図っていく場所となっている。市三宅の高専用地でも緑地がなくなってしまう。環境基本計画に沿った活用をして欲しい。

『にぎわい創出に向けた野洲駅南口周辺整備事業』に関する質疑応答（概要）

▶：質問・意見、⇒：答弁

- ▶市民懇談会で説明された内容は、既に決定したことなのか。
市民からの要望・意見は、後の駅前整備計画に反映されるのか。
⇒今回説明した内容は、現時点のものである。今後、公募要項を作成するにあたり、いただいた意見については、反映できるものは取り入れていきたいと考えている。

- ▶野洲駅南口周辺整備構想検討委員会の構成委員の内、学識経験者の人数は。
⇒全13名の内、学識経験者2名の構成となっている。

- ▶野洲駅前整備にあたっては、野洲市独自の歴史的・文化的側面を生かし、野洲市出身の広瀬幸平のような先人の顕彰施設を設けてはどうか。
⇒計画では、民間事業者からの提案を受けて、市民がにぎわいを感じていただけるような施設を整備していく考えである。
先人を顕彰する場については、様々な場面を通じて、機会があれば、検討していきたい。

- ▶かつて病院を駅前に整備する計画を検討していた際の野洲駅南口周辺整備構想検討委員会では、学識経験者から「駅前には混まない」と実情と異なる意見があった。
⇒以前の構想検討委員会から引続き、学識経験者として委員を担っていただいているが、自身の考えを押し付けず、市民の意見を十分に聞いていただける方であると考えている。
駅前の渋滞については課題として認識しており、整備計画と合わせて渋滞解消に向けて対策を講じていければと考えている。

- ▶近隣他市では駅前に広場を設けても、機能していないように思える事例もある。利用するか分からない市民広場よりも、かつて野洲駅前にあった温浴施設のような施設の方が、にぎわいにつながるのではないかと。
⇒市民広場の整備面積について様々な意見があるが、1,000㎡程度を市が責任をもって確保し、それ以上の面積が民間事業者から提案された場合は、検討していく予定である。

- ▶Cブロックについて、市が利用するにあたり、何かしらの使用制限がかかるようなことはないのか。
⇒駅前交番を存置することや、公衆トイレ・駐車場の既存施設の取扱いはあるが、それ以外は、特に問題ない。

- ▶日本全体が人口減少傾向にある中、駅前ににぎわいを創出したとしても、人口増加につながるようなことはないのではないかと。計画では、夢が入り過ぎているように思えるので、もう少し現実的に、野洲市にとって最も良いと思えるような駅前整備を進めていただくようお願いする。

- ▶土地を売却してしまうと、将来的にどのように使われるか分からないことから、長期的に考えて、定期借地とする方がよいと思う。

- ▶ 駅前にホテルを整備する場合、ある程度の高さが必要となるのではないか。
- ▶ シライシアター野洲を残すならば、駐車場について、駅前整備と合わせて検討してはどうか。
- ▶ もしも、駅前にコンベンションホールを整備するならば、民間の料金設定では高くなることから、野洲学区の市民でも利用できるような設定としていただきたい。
- ▶ Cブロック内の駐輪場を無くしてしまうと、現在の利用者が困ることから、そのことを踏まえて計画いただきたい。
- ▶ 商業施設を整備する場合、野洲駅前の昼夜人口を考慮するとともに、民間事業者及び幅広い世代の市民の意見を参考に、大きな制限をかけ過ぎないように計画いただくようお願いする。
- ▶ 駅前整備に係る予定工期は令和7年度から8年度までとされているが、令和7年度は、県内で国スポ・障スポが開催される年でもあり、野洲駅は全国から来られる市の玄関口となることから、整備期間中の大会との兼ね合いについて、対策・検討いただきたい。
⇒ Bブロックの工期については、土地交換に係る協議や、学童移転の調整もあり、Aブロックの工期（令和7年度から8年度）に比べて遅れることが想定される。
大会中の野洲駅については、来訪者が気持ちよく利用いただけるよう工夫したいと考えている。
- ▶ 資料では、サウンディングのことを市場調査としているが、単なる民間事業者との意見交換ではないのか。
⇒ サウンディングは、野洲駅前の土地を活用する場合、民間事業者から見て、どのような提案が可能か意見をいただくために行ったものである。
- ▶ サウンディングでは土地の買取りを希望する事業者がいるが、市が市民と対話し、1年以上かけて土地を購入した経緯もあることから、安易に土地売却の選択肢を提示すべきではない。
⇒ 駅前の土地利用については、民間事業者から様々な魅力ある提案をいただくために、売却・定期借地いずれの方法も選択肢として募集する考えである。
公募にあたっては、売却、定期借地、いずれも相場を示した上で、民間事業者から提案をいただく予定である。
- ▶ 市が提示する必須機能が、A・B・Cブロック合わせて1,200㎡しかないのは、全体の面積からしてあまりにも小さいのではないか。
⇒ 市の必須機能として設ける必要最小限の面積が1,200㎡であり、今後の民間事業者からの提案によって、どの程度の面積とするか検討していきたい。
- ▶ サウンディングには、どのような業種の事業者が応じたのか。
⇒ サウンディングに応じていただいた12社の業種は、デベロッパー、ゼネコン、設計事業者、スポーツクラブ等となっている。

- ▶Cブロックの整備にあたり、駐輪場を管理・運営している給与所得者の会とは協議できているのか。
⇒協力的に協議いただいているところである。

- ▶想定スケジュールについて、事業契約締結に令和6年度の1年間をかけて行うのか。
⇒令和5年度末（令和6年3月）に連携事業者の選定を行う予定であるが、具体的な整備内容を決め、契約手続きを行っていくには1年程度は必要となる見込みである。

- ▶JR野洲駅の利便性の向上と、今回の南口周辺整備との関係性についてどのように考えているのか。
⇒JR野洲駅は新快速の停車駅であり、発着点でもあることから利便性の高い駅であると考えているが、JR西日本全体の方針として無人化を進められているところである。
今後、JR西日本が無人化・機械化を進められる中で、駅の利用に支障が生じる場合は、市からJR西日本へ、利便性向上に向けて要望したいと考えている。